

CASBEE京都-新築(2011年版)
学生集会所

■使用評価マニュアルCASBEE京都-新築(2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1)

スコアシート		実施設計段階		重点項目等		重点項目に対する全国版評価基準の見直し		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目						評価点	重み係数	評価点	重み係数					
Q 建築物の環境品質														
Q1 室内環境														
1 音環境														
1.1 騒音														
1 室内騒音レベル														
2 設備騒音対策														
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														
2 界壁遮音性能														
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														
1.3 吸音														
2 温熱環境														
2.1 室温制御														
1 室温														
2 負荷変動・追従制御性														
3 外皮性能														
4 ゾーン別制御性														
5 温度・湿度制御														
6 個別制御														
7 時間外空調に対する配慮														
8 監視システム														
2.2 湿度制御														
2.3 空調方式														
3 光・視環境														
3.1 昼光利用														
1 昼光率														
2 方位別開口														
3 昼光利用設備														
3.2 グレア対策														
1 照明器具のグレア														
2 昼光制御														
3 映り込み対策														
3.3 照度														
3.4 照明制御														
4 空気質環境														
4.1 発生源対策														
1 化学汚染物質														
2 アスベスト対策														
3 ダニ・カビ等														
4 レジオネラ対策														
4.2 換気														
1 換気量														
2 自然換気性能														
3 取り入れ外気への配慮														
4 給気計画														
4.3 運用管理														
1 CO ₂ の監視														
2 喫煙の制御														
Q2 サービス性能														
1 機能性														
1.1 機能性・使いやすさ														
1 広さ・収納性														
2 高度情報通信設備対応														
3 バリアフリー計画														
1.2 心理性・快適性														
1 広さ感・景観														
2 リフレッシュスペース														
3 内装計画														
1.3 維持管理														
1 維持管理に配慮した設計														
2 維持管理用機能の確保														
2 耐用性・信頼性														
2.1 耐震・免震														
1 耐震性														
2 免震・制振性能														
2.2 部品・部材の耐用年数														
1 躯体材料の耐用年数														
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														
6 主要設備機器の更新必要間隔														

2.4 信頼性					2.0	0.19			
1	空調・換気設備				1.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			災害時の使用不能部分の低減	4.0	0.20			
3	電気設備				1.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.3	0.29			3.3
3.1 空間のゆとり					4.2	0.31			
1	階高のゆとり			様々な活動に対応できる十分な天井高を確保	5.0	0.60	1.0		
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.40	1.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	2.0		
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	山並み背景型美観地区における計画の認定取得	4.0	0.40			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮, 快適性の向上	●とも, 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.4
LR1 エネルギー					-	0.40			3.8
1 建物の熱負荷抑制				高い断熱性能を確保	4.0	0.30			4.0
2 自然エネルギー利用					3.5	0.20			3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電を利用	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					3.8	0.30			3.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=13.5%	3.0				
集合住宅の評価					4.0				
4 効率的運用					4.0	0.20			4.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制			運用方針・エネルギー削減目標の計画を実施	5.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.5
1 水資源保護					3.0	0.15			3.0
1.1	節水				3.0	0.40			
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.6	0.63			3.6
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	地域産材の利用	5.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	地域産材の利用	4.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上の分別が比較的容易なGL工法の採	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.22			3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			指定化学物質を含まない材料の使用	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					2.5	0.68			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				2.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			2.7
1 地球温暖化への配慮					3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮					1.9	0.33			1.9
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50			
2.3	地域インフラへの負荷抑制				2.6	0.25			
1	雨水排水負荷低減				-	-			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3	交通負荷抑制				3.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.33			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.50			
2	振動				-	-			
3	悪臭				3.0	0.50			
3.2 風害, 日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる